



がん検診編

『便潜血検査が陽性なのは、痔のせいですか？』

「便潜血検査が陽性でした。実は痔（じ）で…出血は痔のせいです。精密検査は受けなくていいですよ？」

そうですね、痔のせいでしょう。・・・と言いたいところですが、残念ながら便潜血検査では、その出血が痔によるものなのか、大腸の病気によるものなのかを区別することができません。こんな調査報告もあります。

『痔がありますと答えた人 24031 人中、便潜血検査が陽性だった人は 1118 人 (4.6%)』

痔の自覚症状があっても、便潜血検査陽性とならない人が大半だということです。そのため、痔以外の大腸の病気による出血を疑って、精密検査が必要となるのです。

「じゃあ…もう一回、調子が良い時に便潜血検査を受けてみていいですか？その結果を見てから考えます！」

なるほど、次は陰性（異常なし）かもしれませんね。では、もう一回便潜血検査をした場合のことを考えてみましょう。

- ① やっぱり『陽性』だった
→諦めて精密検査を受ける。
- ② やった！今度は『陰性』！
→前は「痔」のせいに違いない。
精密検査は受けない。

どうでしょうか？②の場合、要精密検査となった不安は本当に解消されますか？今回陰性だったとしても、前回の出血は「痔」によるものだったとは言えません。

皆さんの便は、毎日同じですか？色、形、大きさ、臭い…毎日少しずつ違うのではないのでしょうか。便は、とても不安定な物質なのです。大腸



に病気があっても、毎日出血するとも限りません。そのため、見落としを少なくかつ効率の良いように、2日分の便を検査しています。365日のうちのたった2日の便です。そのうちの1日でも出血が認められれば、病気のサインかもしれないのです。精密検査が必要です。

大腸がんの精密検査は大変！？

「精密検査を受けなくても大丈夫だと言ってほしい。」こんな思いからの問い合わせが多いのも、大腸がん検診の特徴です。「精密検査が大変」と知られているようです。精密検査は大腸内視鏡検査といって肛門からカメラを入れます。前日・当日の検査食と下剤で腸をキレイにした上でカメラを入れるのですから、手間がかかる、怖そうな、痛そうな、なんといっても恥ずかしい検査であることは確かです。しかし、医師に直接腸の粘膜の状態を確認してもらえ精度の高い検査でもあります。便に血が混じる原因はがんだけではありませんが、大腸がん検診により、進行がんの約80%、早期がんの約50%を拾い上げることができます。がん死亡のうち肺がん、胃がんに次いで多いのは大腸がんです。何十年もの間、働いてきている大腸です。40歳を過ぎたら毎年便の検査をし、要精密検査となれば「チェックするチャンス！」到来です。侮らずに必ず大腸内視鏡検査を受けてください。

参考文献『免疫便潜血検査（2日法）による大腸がん検診』藤好建史著、栄研化学株式会社、1995